

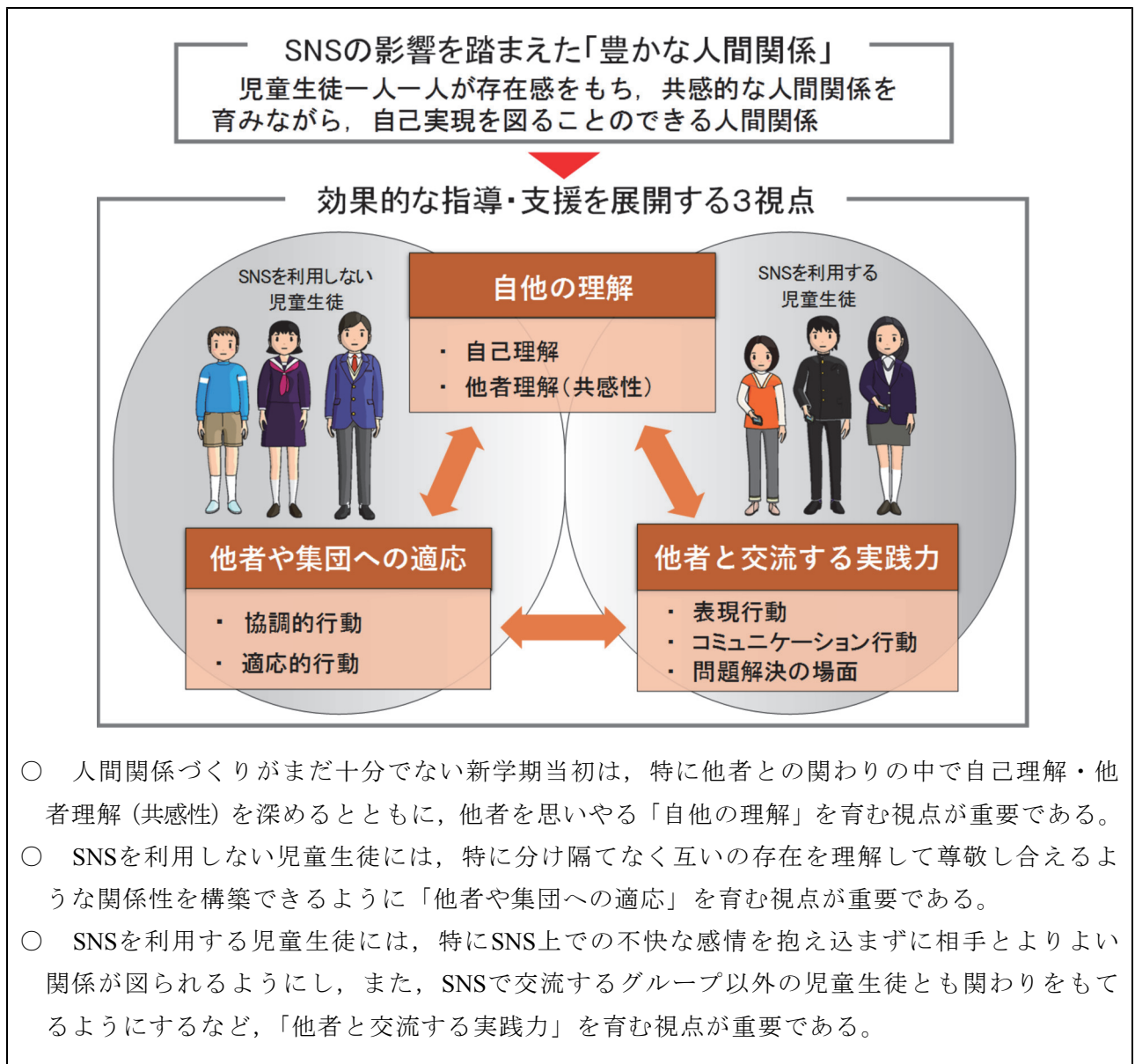
**第3章 「豊かな人間関係」の育成に向けた組織的・計画的な指導・支援の在り方**

**1 SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の三つの視点**

これまでの先行研究において、豊かな人間関係については様々な表現や定義付けがなされているが、本研究では、SNSの影響を踏まえ、「豊かな人間関係」を「児童生徒一人一人が存在感をもち、共感的な人間関係を育みながら、自己実現を図ることができる人間関係」と定義した。これは、学習指導要領の配慮すべき事項にある「日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てる。」と本県の教育振興基本計画にある「集団生活の中で豊かな人間関係を構築していくために、人権尊重の涵養を図り、心の通う対人交流の能力の素地を養う。」から捉えたものである。

また、児童生徒の実態調査の結果と栃木県教育委員会の先行研究を参考にして、「豊かな人間関係」の育成を図る効果的な指導・支援を展開する視点として「自他の理解」、「他者や集団への適応」、「他者と交流する実践力」の三つに分類した。

SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の構想を、図3-1のようにまとめた。



- 人間関係づくりがまだ十分でない新学期当初は、特に他者との関わりの中で自己理解・他者理解(共感性)を深めるとともに、他者を思いやる「自他の理解」を育む視点が重要である。
- SNSを利用しない児童生徒には、特に分け隔てなく互いの存在を理解して尊敬し合えるような関係性を構築できるように「他者や集団への適応」を育む視点が重要である。
- SNSを利用する児童生徒には、特にSNS上での不快な感情を抱え込まずに相手とよりよい関係が図られるようにし、また、SNSで交流するグループ以外の児童生徒とも関わりをもてるようにするなど、「他者と交流する実践力」を育む視点が重要である。

図3-1 SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の構想

豊かな人間関係を育成するためには、それぞれの視点による観点と求められる具体的な態度が必要となる。そこで、本研究では、それぞれの観点と具体的な態度を以下の表3-1のように整理した。

表3-1 SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の3視点による観点と具体的な態度

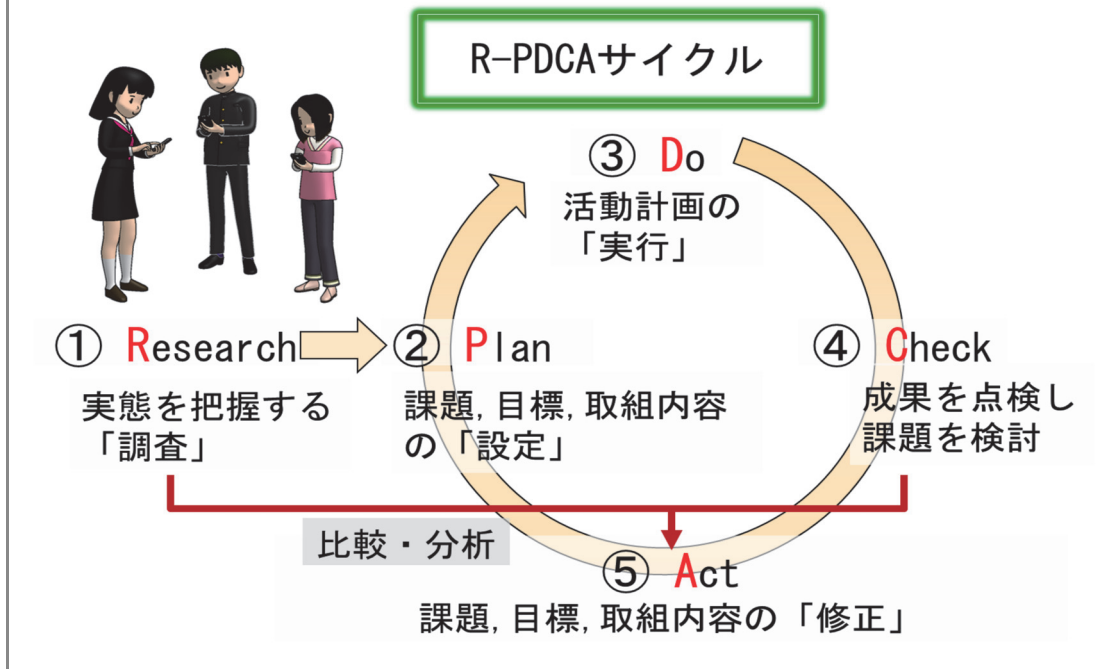
視点	観点	具体的な態度	
自他の理解	自己理解	自分のよさに気付いている。	
		自分の性格について分かっている。	
	他者理解（共感性）	友達の考えや気持ちが分かっている。	
		友達のよいところを知っている。 友達の立場に立って考えることができる。	
他者や集団への適応	協調的行動	みんなで決めたことを守って活動することができる。 誰とでも分け隔てなく活動することができる。	
		適応的行動	自分から友達をつくることができる。 あまり話をしたことのない友達とでも一緒に活動することができる。
	他者と交流する実践力		表現行動
		コミュニケーション行動	
問題解決の場面			友達とうまくいかなくなったとき、自分から友達との関係をよくすることができる。

## 2 サイクルで進める「豊かな人間関係づくり」

SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の年間計画を検討するに当たっては、「学校楽しいーと」などの客観的な指標を用いた実態把握を行った上で「課題」を明らかにし、「目標」、「取組内容」を設定することが必要である。また、計画通りに取組が実行できているかを定期的に「点検」することが大切である。その際、主観的・直感的なイメージで実行の可否を決定するのではなく、計画を作成する際に用いた同じ指標を用いて、確実に目標が達成されつつあるのか、児童生徒に変容が見られるかなどを客観的に評価することが求められる。そして、取組前と取組後の結果を踏まえ、「目標」や「取組内容」、「行動計画」、「方向性」などを更に見直し、新たな「行動計画」を立案することが必要となる。

このように「豊かな人間関係づくり」の年間計画では、「Research（調査から実態を把握する）→Plan（課題、目標、取組内容を設定する）→Do（活動計画を実行する）→Check（成果を点検する）→Act（課題、目標、取組内容を修正する）」の検証改善サイクル（R-PDCAサイクル）に基づいて、改善を図りながら進めていくことが大切である。次に示すのは、R-PDCAサイクルを意識して年間計画を立案するための基準である（図3-2）。

## ■ 「豊かな人間関係づくり」の年間計画



### R : Research 調査

① 「調査」から実態を把握する。

- ・ 「学校楽しいーと」、「SNS チェックシート」等の客観的な指標に基づいた実態把握をする。

### P : Plan 計画

② 課題、目標、取組内容を「設定」する。

- ・ 課題を基に、年度内に達成したい児童生徒の好ましい姿を目標として設定する。
- ・ 行動計画（目標を実現するための具体的な取組内容の年間計画）を立てる。

### D : Do 実行

③ 活動計画を「実行」する。

- ・ 児童生徒の「豊かな人間関係づくり」の行動計画に基づいて実行する。
- ・ 日常の教育活動等に関する情報・資料を継続的・組織的に収集・整理する。

### C : Check 点検

④ 成果を「点検」する。

- ・ 課題を捉えるための実態把握と同じ「学校楽しいーと」、「SNS チェックシート」等を用いて実施する。
- ・ 取組評価を行う際は、学校生活で見られる児童生徒の姿から「最近、クラスの雰囲気明るい。」「楽しそうに過ごしている。」等、教師の主観的な評価で終始しないように注意する。

### A : Act 修正

⑤ 課題、目標、取組内容を「修正」する。

- ・ 点検による改善方策に基づき、教育活動等の計画を見直す。

図3-2 R-PDCAサイクルによる年間計画の基準

(1) 学級活動と個別のサイクルモデル

図3-3は、SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の年間計画を検討する際に中核となる学級活動と個別対応のR-PDCAサイクルのモデル事例である。

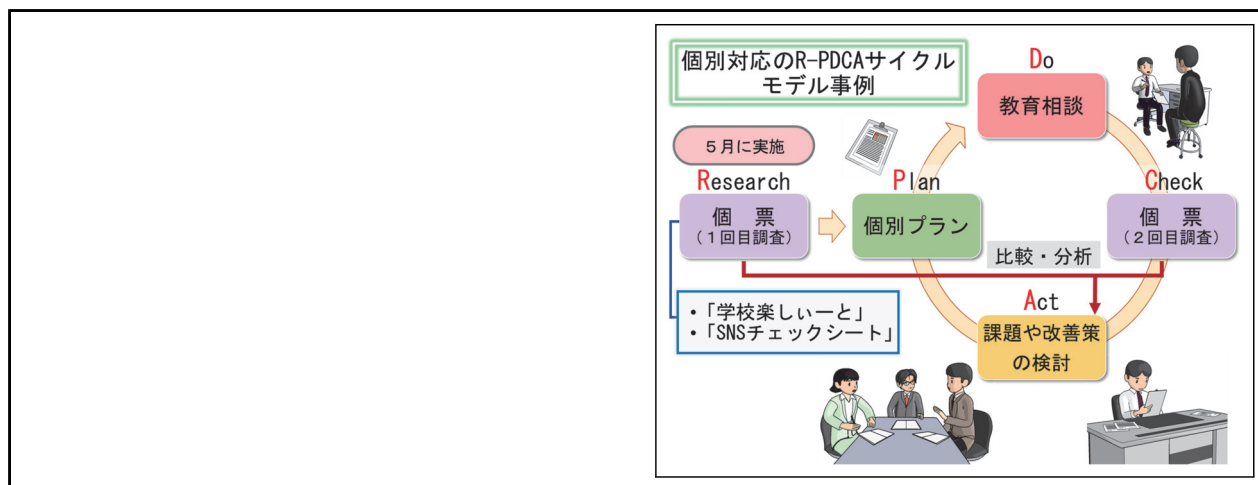


図3-3 学級活動と個別のR-PDCAサイクルのモデル事例

学級活動におけるモデル事例では、R-PDCAサイクルに基づく取組を4月～9月の期間と10月～3月の期間で進める計画を立てることを基本としている。一方、個別対応のモデル事例では、R-PDCAサイクルに基づき、個票の結果から早急に個別プランを立て教育相談や保護者面談等による確認・指導・支援を実施するとともに対応する。また、状況によっては、2回目の個別調査を実施するなど、きめ細かな対応を図らなければならないケースがあることから、個に応じたサイクルで対応を図ることを基本とする。

(2) サイクルモデルの点検と見直し

「Check（点検する）」の段階において児童生徒に期待する変容が見られなかった場合、その後の取組に向けた改善策を講じることが重要となる。国立教育政策研究所の「サイクルで進める生徒指導：点検と見直し<sup>\*2</sup>」では、点検を進める際の10のポイントとして、以下の観点から原因を明らかにするように示されている。

「Check」では、次のサイクルの「Do（実行）」を進める上で、見直すべき点を明確にし、行動計画を修正しなければならないが、こうしたポイントから確認することが大切となる。また、望ましい方向に変容した場合においても、「行動計画」の何が適切であったのか、どのような取組が効果的であったのかなどを評価することも大切である。

【点検を進める際の10のポイント】

- ① 「目標」の達成状況を客観的指標で確認
- ② 「課題」は実態を踏まえていたか
- ③ 「目標」は「課題」に対して適切なものだったか
- ④ 「目標」の達成につながる「行動計画」だったか
- ⑤ 「行動計画」は予定通り実行されたか
- ⑥ 「目標」を意識して取り組まれたか
- ⑦ 具体的な動きやめあてが共有されていたか
- ⑧ 児童生徒が主体的に取り組む工夫はあったか
- ⑨ 想定外の指標の変化はあったか
- ⑩ 次なるステップの設定

\*2 生徒指導・進路指導研究センター 生徒指導リーフ増刊号「いじめのない学校づくり2」 平成26年6月

### 3 SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」のための児童生徒理解

#### (1) 児童生徒の実態を捉えるためのSNS質問紙「SNSチェックシート」

SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の指導・支援を行う際は、「Research」の段階において、SNSを利用する児童生徒の実態を客観的に把握できる指標が必要である。そこで、児童生徒の実態を捉えるため、実態調査の結果に基づいて「SNSチェックシート」を開発した。「SNSチェックシート」の概要は次のとおりである。

##### ア 「SNSチェックシート」の内容構成

質問紙は、SNSの利用状況に関する5項目の質問とSNS観点から心理状態を客観的に把握する15項目の質問の計20項目で構成されている。SNS観点に関する質問項目の回答は、「学校楽しい」と同様に最もふさわしいと思う数字の中から一つを選択する4件法とした。

次ページの図3-4は、中学生・高校生用の「SNSチェックシート」を示す。

##### イ 「SNSチェックシート」の実施上の留意点

###### (ア) 対象学年

「SNSチェックシート」は、小学校高学年以上の学年を対象に想定して作成している。

###### (イ) 実施上の注意

以下に「SNSチェックシート」の結果を生徒指導・教育相談の資料として活用する際の注意点を示す。

- 児童生徒を多面的・多角的に理解するために、「学校楽しい」と併せて実施することが望ましい。「SNSチェックシート」は「学校楽しい」と同時に配布し、回答の順は学級の全員が関わる「学校楽しい」から回答するよう指示する。なぜなら、「SNSチェックシート」の質問項目は、SNSを利用する児童生徒を対象に質問項目が構成されているからである。
- 回答結果については、個人情報保護に努め、「学校楽しい」と同様に学級全員の前で結果を公表したり、特定の児童生徒と比較したりはしない。
- 回答結果は児童生徒の一面を捉えた資料であるため絶対視するものではなく、観察法・面接法等で児童生徒の理解を図ったり、他の教師と情報交換をして共通理解を深めたりするなど継続的な指導・支援に役立てる。
- 児童生徒が2回目以降の調査においても安心して回答できるよう、調査結果を否定的な見方で評価したり、叱責したりするための資料として活用しないようにする。
- 質問紙の回答の信頼性を高めるために、児童生徒が比較的落ち着いて回答できるよう、学校行事のない時期や時間帯（午前中）を設定するなどの配慮が必要である。

## SNSチェックシート

ー 中学生・高校生用 ー

■ 学年・組・出席番号 ( ) 年 ( ) 組 ( ) 番  
 ■ 氏名 ( ) ( )

- これから、あなたのSNSの利用（メールやLINE、カカオトークなどの文字や絵文字（スタンプなど）を使ったメッセージ交換）について質問します。よく読んで、最もよく当てはまる数字一つに○を付け、回答欄にその数字を記入してください。
- 利用していない場合は答えなくてよいですが、学年・組・出席番号・名前を記入してください。

(1) あなたは、普段、メールやチャットを週にどれくらい利用していますか。  
 ほぼ毎日使う ときどき使う あまり使わない ほとんど使わない  
 (週に3~4日) (週に1~2日) (月に数回)  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(2) あなたは、平日にメールやチャットをどれくらい利用していますか。だいたい時間を答えてください。  
 2時間以上 1~2時間未満 30分~1時間未満 30分未満  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(3) あなたは、メールやチャットを使い始めてどれくらいになりますか。  
 2年以上 1~2年 6か月~1年 6か月未満  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(4) あなたは、チャットをするグループ【グループチャット】にいくつ入っていますか。  
 21グループ以上 11~20グループ 1~10グループ グループチャットはしない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(5) あなたが利用するLINEなどのSNSは学校外のメンバーが多いですか、それとも学校内のメンバーが多いですか。  
 ほとんど学校外のメンバー 学校外のメンバーが多い 学校のメンバーが多い ほとんど学校内のメンバー  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

■ メールやチャットでメッセージのやり取りをする際に、以下のことについてどの程度、気をつけていますか。

(6) 住所や電話番号、メールアドレス、顔がうつっている写真のことなどの情報は出さないようにしている。  
 とても気をつけている 気をつけている あまり気をつけていない 全く気をつけていない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(7) 相手が不愉快な気持ちになるような内容は書かないようにしている。  
 とても気をつけている 気をつけている あまり気をつけていない 全く気をつけていない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(8) メッセージを送る前に問題がないか確認をするようにしている。  
 とても気をつけている 気をつけている あまり気をつけていない 全く気をつけていない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(9) 長時間にならないようにメッセージのやり取りをしている。  
 とても気をつけている 気をつけている あまり気をつけていない 全く気をつけていない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(10) メッセージのやり取りで嫌な気持ちになったときは、直接、会話を気持ちよく伝えるようにしている。  
 とても気をつけている 気をつけている あまり気をつけていない 全く気をつけていない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(11) メッセージのやり取りで困ったときは親や先生に相談するようにしている。  
 とても気をつけている 気をつけている あまり気をつけていない 全く気をつけていない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

■ 自分の気持ちや考えに当てはまる番号を選んでください。

(12) メールやチャットでのやり取りを通じて気持ちを確かめることができる。  
 とても思う 思う あまり思わない 全く思わない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(13) メールやチャットでメッセージのやり取りをすることでつながりをもてる。  
 とても思う 思う あまり思わない 全く思わない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(14) メールやチャットでメッセージのやり取りをして、さびしさをすぐにまぎらわすことができる。  
 とても思う 思う あまり思わない 全く思わない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

■ メールやチャットでやり取りをしていて、以下のことについて悩んだり、負担に感じたりすることがありますか。

(15) メッセージがきたらすぐに返事をする。  
 とてもあてはまる あてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(16) 送られてくるメッセージをチェックすること。  
 とてもあてはまる あてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(17) メッセージのやり取りをなかなか終わらせられないこと。  
 とてもあてはまる あてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(18) 自分が送信したメッセージに対する反応がないこと。  
 とてもあてはまる あてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(19) メッセージの送信後、「あの伝え方がよかったのだろうか」と悩むこと。  
 とてもあてはまる あてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_

(20) 知らないところで自分のことメッセージをやり取りしているのではないかと心配になること。  
 とてもあてはまる あてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない  
 4 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 1 \_\_\_\_\_



図3-4 中学生・高校生用「SNSチェックシート」

(ウ) 集計表へのデータ入力

「SNSチェックシート」の回答結果は、入力用シート（図3-5）に質問項目順に沿って入力する。個票や学級票では、データが高いほど良好な回答になるように設定している。そのため、逆転項目となる「『やり取りをする相手との関係性』の悩み・負担感」、「『即レス』の悩み・負担感」、「『SNS利用のやり取り』の親和性」のSNS観点の下位項目は、入力したデータが自動的に変換される設定になっている。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
利用日数	平日にSNSを利用する時間	SNSを使い始めてからの経験年月	取り始めるグループの人数	SNSのメンバー	普段、利用しているSNSの種類	に慣れている人	いなるような不快な内容	う話にしているか確認	しメッセージを送る前に	る。は、直接、会話で	すた友とのやり取り	で取りとメッセージのやり取り	と取りとメッセージのやり取り
1	1	1	1	4	1	1	2	1	3	3	1	1	
1	4	1	4	4	3	2	4	4	4	4	2	1	
3													
4													
5													
6													

図3-5 「SNSチェックシート」回答入力用シート（一部）

(エ) 集計表へのデータ入力

a 個票

個票は、SNS利用の実態（図3-6）、SNS観点の下位項目の回答（図3-7）、各観点のバランスを示すレーダーチャート（図3-8）で構成し、1回目と2回目の回答結果を比較して個人の変容を視覚的に把握できるようにしている。

【 SNSの利用実態 】	1回目調査	2回目調査
	(1) SNSの1週間当たりの利用日数	ほぼ毎日使う
(2) 平日にSNSを利用する時間	1～2時間未満	⇒ 2時間以上
(3) SNSを使い始めてからの経験年月	1～2年	⇒ 2年以上
(4) 普段、利用しているSNSのメンバー	グループチャットはしない	⇒ 21グループ以上
(5) 普段、利用しているSNSの学校内のメンバー	学校内のメンバーは半分より少ない	⇒ 学校内のメンバーは半分より多い

図3-6 SNSの利用の実態を示す結果

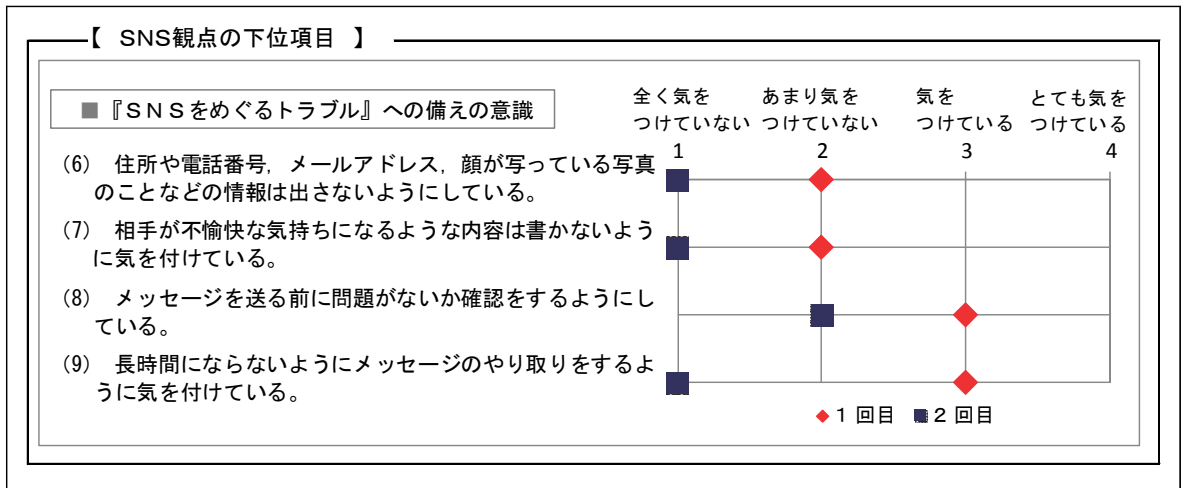


図3-7 SNS観点の下位項目の回答を示す点グラフ

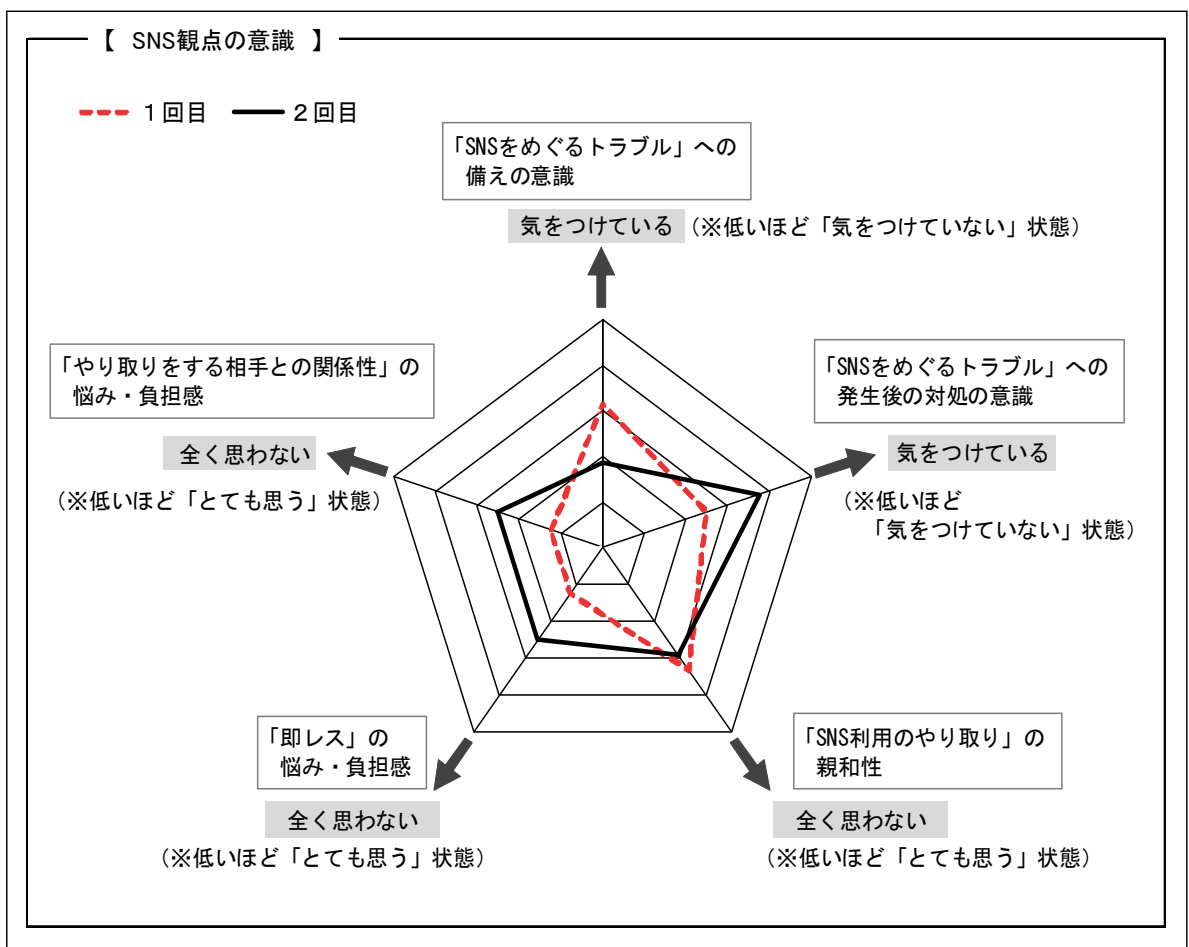


図3-8 SNS5観点のバランスを表示するレーダーチャート

b 学級内分布票

学級の結果についても1回目と2回目の回答結果を比較できるように、学級のSNS観点の下位項目の回答を示す点グラフとSNS5観点のバランスを表示するレーダーチャートに加え、学級のSNS利用の実態を示す度数分布表(図3-9)、各SNS観点の下位項目の平均値と度数分布を示す表(図3-10)、回答の割合を表示する帯グラフ(図3-11)で結果を表示し、学級の変容を視覚的に把握できるようにしている。



【 SNSの利用実態 】

(1) SNS(メールやチャット)の利用状況	ほぼ毎日使う	1回目 12	⇒	2回目 16
	ときどき使う(週に3~4日くらい)	4	⇒	2
	あまり使わない(週に1~2日くらい)	0	⇒	1
	ほとんど使わない(月に数回)	3	⇒	1

(2) 平日にSNSを利用する時間	2時間以上	1回目 2	⇒	2回目 4
	1~2時間未満	6	⇒	4
	30分~1時間未満	5	⇒	6
	30分未満	6	⇒	6

図3-9 学級のSNS利用の実態を示す度数分布

【 SNS観点の下位項目 】

■ 「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識

4 とても気をつけている 3 気をつけている 2 気をつけていない 1 全く気をつけていない

(6) 住所や電話番号、メールアドレス、顔がうつっている写真のことなどの情報は出さないようにしている。	1回目の調査	2回目の調査
	平均	平均
	度数分布(人)	度数分布(人)
	4 3 2 1	4 3 2 1
	3.16 7 9 2 1	3.25 7 11 2 0
(7) 相手が不愉快な気持ちになるような内容は書かないように気をつけている。	3.21 7 10 1 1	3.20 7 10 3 0
(8) メッセージを送る前に問題がないか確認をするように気をつけている。	2.89 7 5 5 2	2.90 6 7 6 1
(9) 長時間にならないようにメッセージのやり取りをするように気をつけている。	2.68 6 4 6 3	2.70 3 10 5 2

図3-10 各SNS観点の下位項目の平均値と度数分布

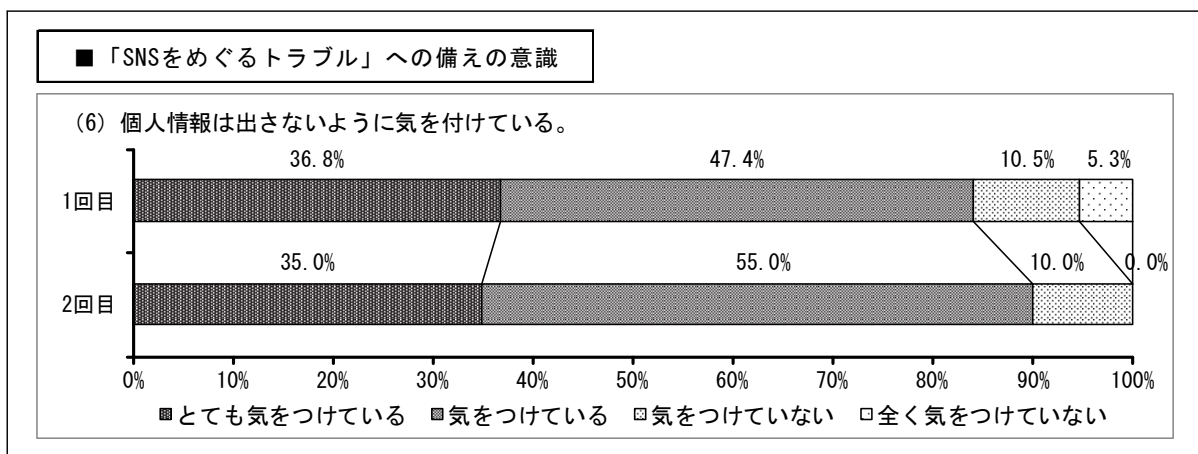


図3-11 各SNS観点の下位項目の回答の割合を表示する帯グラフ

(2) 「SNSチェックシート」と「学校楽しいーと」による児童生徒理解

各SNS観点と「学校楽しいーと」の各観点の関連性を統計処理(相関分析)した結果、表3-2に示す相関関係が明らかになっている。小学6年生の一例で表3-2の見方を示す(太枠の箇所)と、「『SNSをめぐるトラブル』への発生後の対処の意識」が高くなると「教師との関係」、「学習意欲」、「自己肯定感」、「心身の状態」、「学級集団における適応感」は正の相関関係にあることから、これらの観点の値が高くなる傾向にあると判断できる。

表3-2 「学校楽しいーと」の6観点とSNS5観点の関連

「学校楽しいーと」6観点						
小学6年生	友達との関係	教師との関係	学習意欲	自己肯定感	心身の状態	学級集団における 適応感
SNS5 観点 「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	.135* 正の相関	.138* 正の相関	.188** 正の相関	.152** 正の相関	—	.165** 正の相関
「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	—	.138* 正の相関	.268** 正の相関	.300** 正の相関	.138* 正の相関	.206** 正の相関
「SNS利用のやり取り」の親和性	—	-.138* 負の相関	—	—	—	-.135* 負の相関
「即レス」の悩み・負担感	—	—	—	—	—	—
「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	.125* 正の相関	—	.180** 正の相関	.198** 正の相関	.227** 正の相関	.171** 正の相関

「学校楽しいーと」6観点						
中学2年生	友達との関係	教師との関係	学習意欲	自己肯定感	心身の状態	学級集団における 適応感
SNS5 観点 「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	—	.246** 正の相関	.290** 正の相関	.163** 正の相関	—	.122* 正の相関
「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	.123* 正の相関	.323** 正の相関	.249** 正の相関	.208** 正の相関	—	.198** 正の相関
「SNS利用のやり取り」の親和性	-.236** 負の相関	—	—	-.107* 負の相関	—	-.144** 負の相関
「即レス」の悩み・負担感	—	-.118* 負の相関	—	—	—	-.134** 負の相関
「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	.168** 正の相関	—	—	—	.209** 正の相関	—

「学校楽しいーと」6観点						
高校1年生	友達との関係	教師との関係	学習意欲	自己肯定感	心身の状態	学級集団における 適応感
SNS5 観点 「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	—	.127** 正の相関	.318** 正の相関	.155** 正の相関	—	—
「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	.176** 正の相関	.204** 正の相関	.254** 正の相関	.225** 正の相関	—	.129** 正の相関
「SNS利用のやり取り」の親和性	-.158** 負の相関	—	-.119* 負の相関	-.178** 負の相関	—	-.157** 負の相関
「即レス」の悩み・負担感	—	—	—	—	—	—
「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	.173** 正の相関	—	.125** 正の相関	.098* 正の相関	.307** 正の相関	.108* 正の相関

「学校楽しいーと」6観点						
高校2年生	友達との関係	教師との関係	学習意欲	自己肯定感	心身の状態	学級集団における 適応感
SNS5 観点 「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	—	—	.180** 正の相関	—	—	—
「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	.184** 正の相関	.213** 正の相関	.135** 正の相関	.198** 正の相関	—	.157** 正の相関
「SNS利用のやり取り」の親和性	-.171** 負の相関	.095* 正の相関	—	-.124** 負の相関	.198** 正の相関	-.107* 負の相関
「即レス」の悩み・負担感	.111* 正の相関	—	—	—	—	.095* 正の相関
「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	.212** 正の相関	.115* 正の相関	—	—	.269** 正の相関	.151** 正の相関

・ 数値はPearsonの相関係数を示し、相関の強さを意味する（正の値は大きいほど正の相関関係は強くなり、負の値は大きいほど負の相関関係は強くなる。）。

・ \*は5%、\*\*は1%の有意水準を示し、「—」の表記は有意水準がない相関関係にあることを意味する。

このようなことから、「学校楽しいーと」による実態とSNS観点の実態を関連付けてアセスメントをすることにより、児童生徒理解を多角的・多面的にアプローチすることができる。また、不登校等の問題行動の未然防止といった予防的な視点やよりよい人間関係づくりを促す開発的な視点に立った教育相談等の実践にも活用できる。

(3) 「SNSチェックシート」を利用したアプローチ

「SNSチェックシート」の結果から五つのSNS観点は、第2章で示した実態調査の結果が示すように、学年間や利用の実態において特徴や傾向が確認できる。また、五つの観点の関連性を統計処理（相関分析）した結果、全ての学年に共通して『「即レス」の悩み・負担感』と『「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感』の観点に正の相関関係があることが明らかになっている（表3-3）。

表3-3 SNS観点とSNS観点の相関分析結果

		SNS観点			
小学6年生		「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	「SNS利用のやり取り」の親和性	「即レス」の悩み・負担感
SNS 観 点	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	.413** 正の相関			
	「SNS利用のやり取り」の親和性	—	-.152** 負の相関		
	「即レス」の悩み・負担感	—	—	.225** 正の相関	
	「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	—	—	.218** 正の相関	.335** 正の相関
		SNS観点			
中学2年生		「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	「SNS利用のやり取り」の親和性	「即レス」の悩み・負担感
SNS 観 点	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	.510** 正の相関			
	「SNS利用のやり取り」の親和性	—	—		
	「即レス」の悩み・負担感	—	-.097* 負の相関	.160** 正の相関	
	「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	—	-.140** 負の相関	.125* 正の相関	.436** 正の相関
		SNS観点			
高校1年生		「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	「SNS利用のやり取り」の親和性	「即レス」の悩み・負担感
SNS 観 点	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	.509** 正の相関			
	「SNS利用のやり取り」の親和性	—	—		
	「即レス」の悩み・負担感	—	—	.166** 正の相関	
	「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	—	.112* 正の相関	.150** 正の相関	.419** 正の相関
		SNS観点			
高校2年生		「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	「SNS利用のやり取り」の親和性	「即レス」の悩み・負担感
SNS 観 点	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	.184** 正の相関			
	「SNS利用のやり取り」の親和性	—	—		
	「即レス」の悩み・負担感	-.150** 負の相関	—	.182** 正の相関	
	「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	—	—	.161** 正の相関	.438** 正の相関

・ 数値はPearsonの相関係数を示し、相関の強さを意味する（正の値は大きいほど正の相関関係は強くなり、負の値は大きいほど負の相関関係は強くなる。）。

・ \*は5%、\*\*は1%の有意水準を示し、「—」の表記は有意水準がない相関関係にあることを意味する。

このことから、『「即レス」の悩み・負担感』を感じている児童生徒を指導・支援する場合、『「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感』を軽減することが有効なアプローチとなる。アプローチは、集団での活動場面で自分の考えや気持ちを表現できる取組を実施することや、教育相談場面で悩み・負担感をカウンセリングの姿勢（傾聴・受容・共感）で対応することなどが考えられる。よって、児童生徒一人一人の状態等に応じた指導・支援の充実を図っていく上で、SNSを利用する児童生徒のもつ特徴や傾向を適切に理解し把握することは、個別指導や学級経営の年間計画などを検討する上でも非常に大切である。